

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	44人	算数	44人	理科	44人
第5学年	国語	60人	算数	60人	理科	60人

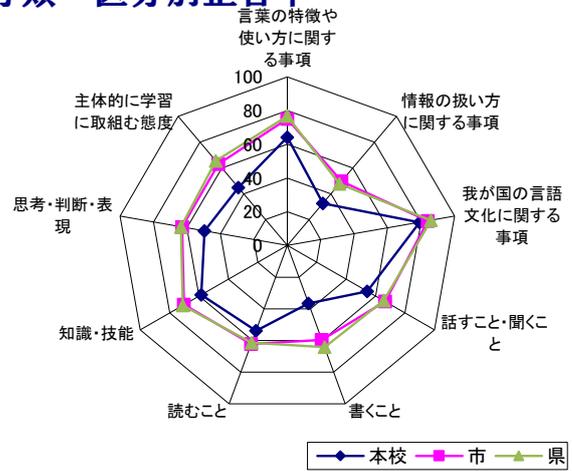
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.2	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	32.6	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	79.1	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	54.4	66.5	65.5
	書くこと	36.6	59.6	64.2
	読むこと	53.9	62.2	61.5
観点	知識・技能	58.5	70.2	71.1
	思考・判断・表現	49.5	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	44.7	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

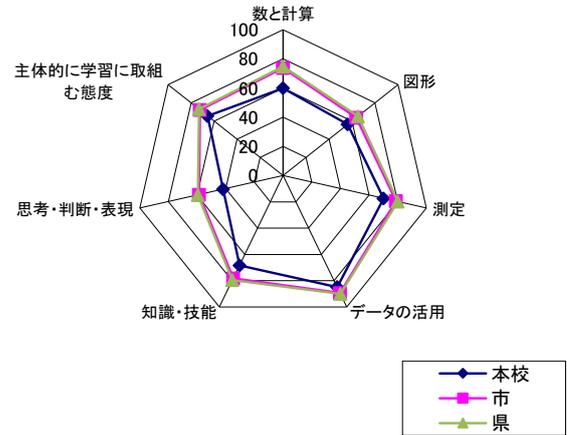
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「ローマ字の読み」に関する問題では、正答率が76.7%で県の平均正答率を2.1ポイント上回った。 ●「第3学年配当漢字」に関する問題では、漢字の読みについては正答率が93.0%で県の平均正答率とほぼ同率であったが、書きの問題では正答率が41.9%で県の平均正答率を25.5ポイント下回った。 ●「文の構成(主語と述語)」に関する問題では、正答率が51.2%で県の平均正答率を22.1ポイント下回った。	・漢字のドリルなどを利用して繰り返し練習を行い、小テストの時間を確保して定着を図ったり、文章の中で既習漢字を使うように指導したりすることで漢字への苦手意識をなくしていくようにする。 ・物語文や説明文の学習において主語、述語を意識させて取り上げていくようにする。
情報の扱い方にに関する事項	●「国語辞典の使い方」に関する問題では、正答率が32.6%で県の平均正答率を18.6ポイント下回った。 ●「話し手が伝えたいことと中心をとらえる」ことに関する問題では、正答率が18.6%で県の平均正答率を18.3ポイント下回った。	・国語辞典で言葉の意味を調べる際には、前後の文章をよく読み、内容に合った意味を選べるように指導していく。 ・情報と情報との関係について関連付ける際には、話し手が伝えたいことと結論だけでなくその根拠も聞き取るように指導する。
我が国の言語文化に関する事項	●「漢字のへんやつくりを理解する」問題では、正答率が79.1%で県の平均正答率を6.8ポイント下回った。	・新出漢字を指導する際に漢字辞典を活用し、部首を意識して漢字を覚えさせる。
話すこと・聞くこと	●「話し手が伝えたいことと中心をとらえる」問題では、正答率が79.1%で県の平均正答率を11.1ポイント下回った。 ●「相手に伝わるように自分の考えを話す」問題では、正答率が62.8%で県の平均正答率を7.1ポイント下回った。	・学級会での話合いや授業中のグループでの話合いの機会を設け、友達の話を聞くことで話し手が伝えたいことと中心をとらえられるようにする。 ・話の要点を聞き取るだけでなく、相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話すことができるように、授業や日常の活動の中に取り入れていく。
書くこと	●「自分の考えを明確にして文章を書く」問題では、正答率が48.8%で県の平均正答率を30.1ポイント下回った。 ●「理由や根拠を明確にして自分の考えを文章に表す」問題では、正答率が39.5%で県の平均正答率を31.9ポイント下回った。	・国語だけでなく、他教科の学習の時間を活用して、自分の意見や考えを文章にまとめ伝え合う時間を意図的に設ける。 ・自分の意見や考えをまとめる際に、理由や根拠を明らかにできるように指導する。
読むこと	○説明文の内容を読み取る問題では、叙述を基に段落や文章の内容をとらえることができ、県の平均正答率とほぼ同ポイントであった。 ●「文章を読んで感じたことや分かったことを共有する」問題では、正答率が39.5%で県の平均正答率を15.8ポイント下回った。	・日頃から本に親しみ読書への関心を高められるよう、図書室利用の奨励を図る。 ・挿絵を活用したり、気持ちを表す言葉に気を付けて読ませたりして、登場人物の気持ちが読み取れるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.9	73.8	74.8
	図形	56.3	63.7	65.3
	測定	70.2	78.9	80.1
	データの活用	84.9	89.3	90.0
観点	知識・技能	68.3	78.3	79.5
	思考・判断・表現	41.9	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	65.7	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

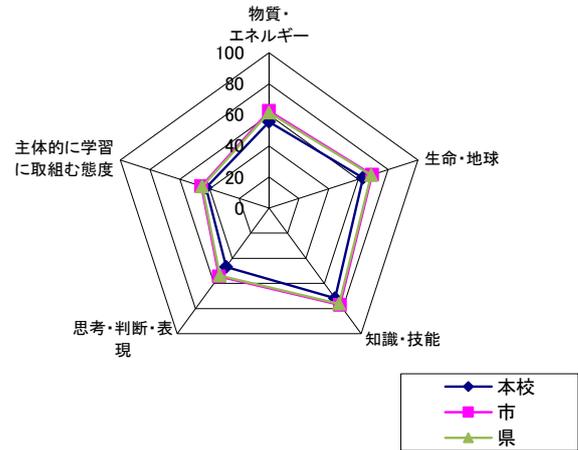
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●「分子が1の分数が何個になるかを理解している」問題では、平均正答率が37.2%で、県よりも20ポイント下回った。 ●「整数-小数第一位の計算ができる」問題では、平均正答率が23.3%で、県よりも25ポイント下回った。 ●「余りのある除法の文章問題の正しい答えをもとめる」問題では、平均正答率が51.2%で、県よりも25.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分数の数量的な理解が定着していないので、面積図や数直線等を活用し、再度定着を図る。 ●整数と小数の関係、計算処理を位取り表を活用して視覚的に復習する。 ●わり算の立式に際しては数直線や図を用いるなどして、習熟を図る。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●「二等辺三角形の作図」問題では、平均正答率が76.7%で、県よりも11.4ポイント下回った。 ●「円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する」問題では、平均正答率が9.3%で、県よりも3.7ポイント下回り、ほぼ無回答であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三角形の作図では、二等辺三角形の性質を復習し、基本的な図形の描き方やコツについて指導を行い、習熟を図る。 ●円の半径がもつ性質を正しく復習させるとともに、試行したことを文章にする練習に取り組んでいく。
測定	<ul style="list-style-type: none"> ●「2つの時刻の間の時間をもとめることができる」問題では、平均正答率が62.8%で、県よりも14.3ポイント下回った。 ●「身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使って表すことができる」問題では、平均正答率が62.8%で、県よりも4.8ポイント下回るにとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間と時刻の関係について、実物や数直線を用いるなどして復習させたり、日常の中で時間を問うなどしたりして習熟を図る。 ●身近なことから学習内容への関連付けについては興味・関心が高い。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●「棒グラフで、1目盛りを表す数がわかる」問題では、平均正答率が86.0%で、県よりも4.2ポイント下回った。 ●「棒グラフを読み取り、2番目に多かった組を指摘することができる」問題では、平均正答率が83.7%で、県を6.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○棒グラフの意味を再度定着させ、理解できる問題に意欲的に取り組む姿勢を身に付けさせる。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.5	62.5	61.5
	生命・地球	63.1	69.2	68.6
観点	知識・技能	71.8	77.2	76.3
	思考・判断・表現	46.8	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	42.4	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「光の性質における水を入れたペットボトルが、光を集めたことを虫メガネに適應する」問題では、正答率が51.2%で県の正答率を2.4ポイント上回った。光の性質と光の集め方について、良く理解をしていた。</p> <p>●「豆電球に明かりがつく場合の導線のつなぎ方」の問題では、正答率が44.2%で県の正答率より13.2ポイント下回った。</p>	<p>・基礎・基本をもとにして、実際に実験装置を操作しながら発展的な学習の場を設定する必要がある。</p>
生命・地球	<p>●「身近な自然の観察で資料をもとに差異点を見出す」問題では、正答率が58.1%で県の正答率より11.9ポイント下回った。</p>	<p>・観察の観点を比較し、共通点や差異点をまとめる指導の必要がある。</p> <p>・まとめる際には、苦手な児童への手立てとして、教師がキーワードや文型を提示し、書くことへの抵抗を減らすような手立てを行うようにする。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の設問に関しては、肯定割合が90.7%と市平均を6.2ポイント上回っている。粘り強く課題に取り組む姿勢が身に付いている。日々の授業でも生かされていると思われる。

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」の設問に関しては、肯定割合が88.4%と市平均を9.7ポイント上回っている。自分の意見を発表することへの意欲が表れている。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問に関しては、肯定割合が69.8%と市平均を7.0ポイント下回っている。コロナ禍におけるグループ活動やペア学習における制限の影響もあると思われる。他者の存在が自己の学習の質の向上につながることを実感させられるような機会を増やしていく。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の設問に関しては、肯定割合が81.4%と市平均を18.1ポイント上回っている。自己肯定感の高さがうかがえる。良い集団作りにつなげていきたい。

●「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり聞いたりしますか」の設問に関しては、2時間以上と答えた児童が67.4%と市平均を13.7ポイント上回っている。普段の家庭での過ごし方について啓発していきたい。

○「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」の設問に関しては、肯定割合が95.3%と市平均を7.1ポイント上回っている。人権教育の成果が表れたものと思われる。

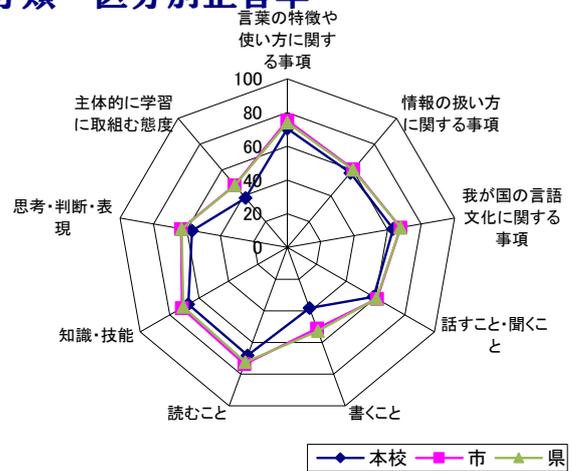
○「家の人と将来のことについて話すことがある」の設問に関しては、肯定割合が79.1%と市平均を11.5ポイント上回っている。自己を見つめることや、変化の大きい時代への意識が啓発されている。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の設問に関しては、肯定割合が48.9%と市平均を11.2ポイント下回っている。辞書の活用の仕方について授業でも積極的に推奨したり、保護者を通じて啓発を図りたい。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.5	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	57.8	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	63.3	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	58.7	61.0	60.7
	書くこと	38.3	51.2	52.8
	読むこと	68.1	73.7	72.4
観点	知識・技能	67.3	71.7	70.6
	思考・判断・表現	57.0	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	38.3	48.2	48.1



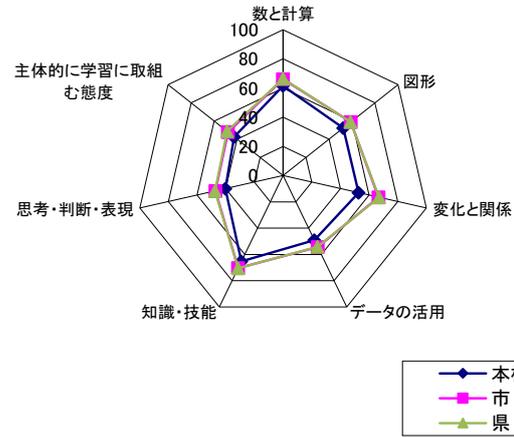
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>○「連用修飾語」に関する問題では、平均正答率が30.0%であり、県の平均を6.0ポイント上回った。</p> <p>●「漢字を書く」問題では、「しゅうへん」と「ふだ」の漢字の正答率が69.4%で県の平均を3.2ポイント以上下回った。</p> <p>●「文章を書く」問題において、正しい構成で書くことができた児童が28.3%で、県の平均を14.7ポイント下</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・漢字練習をする際、既習の漢字を文章の中で正しく使えるようにする。また、小テストを行うことで漢字の定着を図る。</p> <p>・視写プリントや作文プリントを行う際、段落を意識するよう声をかけることで、段落に関する意識づけをするようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○「漢字辞典の使い方」についての問題では、平均正答率が86.7%で、県よりも6.4ポイント上回った。</p> <p>●「情報と情報の関係」に関する問題では、平均正答率が26.7%で、県の平均を9.2ポイント下回った。</p>	<p>・情報を整理し、適切に理解するために、他教科で資料を使う際にも資料の主旨、内容、活用の仕方、資料掲載の理由を適宜指導していく。「身近な人」と「家族、友達」という関係が結びついていないので、授業の中で別の言葉で言い換える練習をしていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●「ことわざ」に関する問題では、平均正答率が63.3%であり、県の平均を4.5ポイント下回った。</p>	<p>・スタンダードダイアリーを活用し、ことわざや慣用句に適宜触れられるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○「意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる」問題では、平均正答率が50.0%で、県より7.4ポイント上回った。</p> <p>●「司会の立場になって意見をまとめる」問題では、平均正答率が40.0%で、県より6.5ポイント下回った。</p>	<p>・話し合い活動において、全員が司会を経験できるようにする。また、話を聞くときはどの立場にたって話をしているのか考えるように促す。</p>
書くこと	<p>●「文章を書く」問題において、35.0%が無回答であった。平均正答率が38.3%で、県より14.5ポイント下回っている。</p> <p>●「事実を伝える文章を書く」問題では、平均正答率が40.0%で県より15.8ポイント下回った。</p>	<p>・文章を書く機会を増やし、書くことへの抵抗を減らす。</p> <p>・「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」など、5W1Hを意識した文を書くように指導を続ける。</p>
読むこと	<p>●物語文で「登場人物の気持ちについてとらえる」問題では、平均正答率が35.0%で、県より8.7ポイント下回った。</p> <p>●説明文で「段落相互の関係をとらえる」問題では、平均正答率が70.0%で、県より6.2ポイント下回った。</p>	<p>・物語文を読む際に、登場人物の気持ちを文章中の表現から考えることを今後も継続していく。また、言葉を厳密に読むことができるようにこそあだ言葉などが出てきた際には、何を示しているのか確認する。</p> <p>・説明文の構成について、段落ごとの内容を意識させる。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.5	66.1	66.4
	図形	52.4	58.9	58.8
	変化と関係	52.7	66.6	67.0
	データの活用	49.2	54.4	54.2
観点	知識・技能	65.3	70.4	70.6
	思考・判断・表現	40.3	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	42.6	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

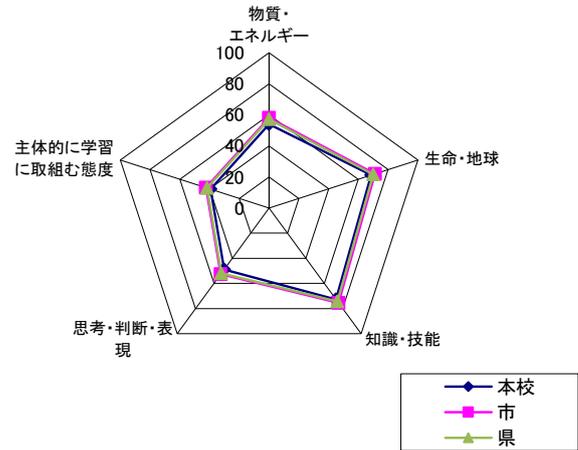
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○「小数を10倍した数」を求める問題では、平均正答率が93.3%で、市の平均を3.3ポイント上回った。</p> <p>○「概数に対応する数の範囲」を求める問題では、平均正答率が63.3%で、市の平均を5.7ポイント上回った。</p> <p>●「数の相対的な大きさ」を求める問題では、平均正答率が38.3%で、市の平均を13.2ポイント下回った。</p>	<p>・億と兆では、10万を何個分、100万を何個分集めた数か図を使って視覚的に指導するとともに、基礎的な問題の習熟を図る。</p> <p>・分数や小数を数直線に表すことができるよう指導し、多くの問題に触れさせて理解させるようにする。</p>
図形	<p>○「小数第二位÷整数＝小数第二位」の計算では、平均正答率が73.3%で、市の平均を7.6ポイント上回った。</p> <p>●「図を使って、基準量を求めるための除法の立式」を求める問題では、平均正答率が48.3%で、市の平均を18.1ポイント下回った。</p> <p>●「基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ」問題では、平均正答率が58.3%で、市の平均を</p>	<p>・割合では、図を基にした考えができるよう指導し、何を求めている問題かを理解できるようにする。</p> <p>・割合では「くらべる数」と「もとにする数」を絵や図を使って認識させ、正しい立式ができるよう指導する。</p>
変化と関係	<p>●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」問題では、平均正答率が36.7%で、市の平均を13.6ポイント下回った。</p> <p>●「伴って変わる2つの数量の一方の値を求める」問題では、平均正答率が71.7%で、市の平均を13.3ポイント下回った。</p>	<p>・変わり方調べでは、伴って変わる2つの数量が、どのように変化しているかを図を使って認識させ、式に表すことができるよう指導する。</p> <p>・多くの問題に取り組ませ、習熟を図る。</p>
データの活用	<p>○「図書室を先週利用した人数と今週利用した人数の違いを求めるのに必要な2次元表」の問題では、平均正答率が25.0%で、市の平均を3.4ポイント上回った。</p> <p>●「2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る」問題では、平均正答率が55.0%で、市の平均を11.9ポイント下回った。</p>	<p>・折れ線グラフと表では、2つの折れ線グラフから、必要なことを正しく読み取らせるとともに、問題に取り組めるようにする。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.0	58.1	57.2
	生命・地球	68.6	71.1	70.0
観点	知識・技能	72.8	75.5	74.4
	思考・判断・表現	48.9	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	39.3	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「水のすがたにおいて、予想が正しかった場合に得られる実験の結果を構想する」問題では、正答率が63.3%で県の正答率を5.9ポイント上回った。</p> <p>●「水の姿において、湯気が液体であることを理解しているかを問う」問題では、正答率が5.0%で県の正答率を9.9ポイント下回った。</p>	<p>・様々な水の姿の変化を見たり調べたりする活動を取り入れて、正しく理解させる。</p> <p>・言語だけでなく、映像や実物などを通して、理解できるよう工夫改善していく。</p>
生命・地球	<p>○「動物の体のつくりと運動において、ヒトの筋肉と関節のはたらき」の問題では、正答率が95.0%で県の正答率を5.2ポイント上回った。</p> <p>●「自然の中の水において、水を入れて覆いをしたビーカーの数日後のようすを指摘する」問題では、正答率が60.0%で県の正答率を13.3ポイント下回った。</p>	<p>・日々の授業の中で課題解決型学習を展開し、実験結果を覚えるだけの授業にならないようにする。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の予習をしている」や「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の肯定的回答率が市平均よりも9.6ポイント高く、家庭での学習を大切に思い充実させていることが分かる。

○「1か月に、何さつくらいの本を読みますか」の質問では11さつ以上の回答率が市平均よりも15.9ポイント高く、本をたくさん読んでいることが分かる。

○「早ね、早起きを心がけている」の肯定的回答率が市平均よりも11.3ポイント高く、「毎日、朝食を食べている」の肯定的回答率も高いことから、規則正しい生活習慣を心がけているということが分かる。

●「学校の授業以外での勉強時間」は、30分以上1時間より少ないの回答率が多く、市平均の「1時間以上2時間より少ない」よりも下回っている。家庭での学習は大切にしているが取り組む時間が少ないので、家庭学習時間は、学年×15分であるので根気強く指導していく。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」や「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」において、肯定的回答率が市平均よりも下回っていることから、学習に対する興味・関心、意欲が低いことが分かる。学校生活において、学習への興味・関心を持ってもらえるような課題を与えていきたい。

●「ふだん1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしているか」において、市平均が、「1時間以上2時間より少ない」に対して、「3時間以上4時間より少ない」と回答した人が多く、さらにテレビゲーム、スマホゲームにおいても市平均よりも多い時間を回答した人が多い。早寝・早起きの習慣は身につけていることから、家での過ごし方について学校でも指導するとともに、1日のゲーム時間の設定においては家庭にも協力を仰ぎながら取り組んでいきたい。

宇都宮市立国本中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「書くこと」への苦手意識を減らすための取組	朝の学習の時間を利用して、月に2回、テーマに合わせた作文を書くことを行い、文章を書くことに慣れるようにする。	4年生・5年生とも、国語・算数・理科の教科において無回答率が、県・市の反応率と比較して高い。特に、記述式においての無回答率が多い。
学習後の振り返りの場の設定	授業の最後に、本時のめあてに対する学びの振り返りを行い、自分の学んだ内容や身についたことの確認ができるようにする。	「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の設問に対して、5年生の肯定的回答は77.8%であり、市と県の肯定的回答割合と同等であった。4年生の肯定的回答は、81.4%であり、市・県の肯定的回答割合を

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関わる調査において、漢字や計算など、基本的な知識・技能に関わる問題であっても全国平均よりも低い。	宮っ子学力ステップアップシートを活用して、学習内容の定着を図る指導の工夫。	朝の学習の時間を活用して、前学年のステップアップシートを行う。年度末には、現学年でのステップアップシートを実施することで定着を図る。
質問紙調査において、家庭学習の時間が1時間未満と回答している児童の割合が、全国平均より多く、家庭学習の時間が短いことを分ける。	家庭学習の定着を図る工夫。	児童が自分で考えて学習できるようにするため、自主学習のヒント集を活用したり、お手本となるような自主学習の取り組みを紹介したりする。保護者への啓発として、学習指導だよりを発行したり、学級懇談会において実情を話したりする。